

岩手県自殺対策推進センター ニュースレター No

産業カウンセラー・福島氏に
インタビュー!!

発行：岩手県精神保健福祉センター・岩手県自殺対策推進センター

このニュースレターは、県内に拡がりつつある自殺対策支援の輪を強化するため、地域の自殺対策のノウハウに関する情報を発信していきます。

ニュース ◆

令和4年5月13日に厚生労働省から発表された「警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等」によると、全国の令和4年4月の自殺者数は1,692人（速報値）で、対前年比162人（約8.7%）減になりました。岩手県の令和4年4月の自殺者数は22人（速報値）で、**対前年比6人（約37.5%）増**になりました。コロナ禍が3年目と長期化しており、これまで同様、継続した取組が必要となります。

	令和3年4月（確定値）		令和4年4月（速報値）		自殺者数対前年比	
	自殺者数 （人）	自殺死亡率	自殺者数 （人）	自殺死亡率	自殺者数 （人）	増減率 （%）
全国	1,854	1.5	1,692	1.2	△162	△8.7
岩手	16	1.3	22	1.8	6	37.5

発表されたデータはこちらのページから参照できます。厚生労働省〈～自殺対策〉～自殺の統計：最新の状況
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/jisatsu/jisatsu_new.html/

特別企画

「ギャンブル依存の支援の現状」 福島 久美子氏にインタビュー

毎年、5月14日～20日はギャンブル等依存症啓発週間です。

本県で、ギャンブル依存の支援を行っている消費者信用生活協同組合の福島久美子氏にギャンブル依存支援の現状についてお聞きしました。

福島 久美子（ふくしま くみこ）

キャリアコンサルタント・産業カウンセラー

岩手県出身。約30年近く商品ディスプレイやプランナーとして活躍。県内外のデパートなどのオープニングや店内装飾、販売員教育などの仕事に従事。その傍ら、相談機関の電話相談に20年間ボランティアとして従事。多くの悩める方への相談対応を行った。のちに産業カウンセラーの資格を、取得し、その後デザイナーの仕事辞め、県内でシェルターや若年者の就労支援、矯正施設、被災地コーディネーターなどに従事し、現在に至る。

分野が違う業種にいて様々な経験をしてきた福島さん。ご自身がいろんな経験を通し、フィルターのないフレキシブルな思考が、現在の仕事へいかされていて、そこが強みかなと話す。



Q. コロナ禍が長期化しているが、ギャンブルに関する相談は増えていますか？

令和3年度の相談件数は、106件ほどです。その中には、何年も前から継続している相談もあります。

新規は、53件です。新規に関しては、前年度とほぼ同じで横ばいくらいです。件数は、あまり増えてはいませんが、1件1件が、犯罪に繋がってしまう重いケースが多くなってきています。性別は、男性が圧倒的に多く95%が男性で、年代的には30代が多いです。

新規の相談のうち、ご本人、ご家族からの相談がほぼ半々という状況です。

Q. どのような相談がありますか？地域性はありますか？

当事者の相談で多いのは、借金がどうにもなくなってから来る方が多いです。

ご家族からは、「子供のギャンブル対応にどうしたらいいのか」ということや、「何度も家族がお金を出してあげたのに、治まらない。どうしたらいいか。」という相談です。

ギャンブルの種類は、パチンコスロット、ネットカジノ、FXなどが8割です。残りの2割は、スマホでの競馬、競輪、競艇が増えてきています。

借金の額でいえば、最高で1億というのがありました。その方の場合は、株取引での失敗です。増やして増やして、最後に投資に失敗とのことでした。こちらは、本人からの相談ではなかったもので、残念ながらつながっていません。

他には、宝くじで犯罪になった事例です。こちら金額が大きかったです。宝くじを買うために、会社のお金を使い込み、顧客や取引先を利用し、裁判沙汰になりました。会社のお金を使い込むケースは多いです。それで、借金、ギャンブルの問題が発覚するという状況です。このような場合、大体会社は解雇になり、そのあとの生活をどうしようという相談となり、実はギャンブルで借金もあります、ということが明らかになります。

地域性では、沿岸部に目立ちます。現在は人口減少でそれほどではありませんが、震災直後は、パチンコ屋がいっぱいでした。地域的に、パチンコ以外の娯楽が少ないのも要因だと思います。借金を繰り返すのですが、借金を恥だと思い、相談に来ることもハードルが高く感じているようです。

Q. このようなギャンブルの問題をかかえる方の背景や傾向を教えてください。

どのような方が多いかということですが、生育歴とかのお話を聴いていると、はっきりと診断を受けた訳ではない方もおりますが、発達障害関連が半数以上と思われれます。

薬物依存やひきこもりは、ご家族からの相談がほとんどですが、ギャンブル依存の場合は、ご本人からの相談が5割程度あります。結局、お金に困って、行き場がなくなって、たどり着くということです。

Q. グループ療法はどのような形で行われていますか？回復したケースはありますか？

グループミーティングは対象が、ご本人・ご家族とそれぞれあり、盛岡・北上の2か所の会場があります。ご本人の参加は、その時々でバラつきがあります。盛岡・北上会場とも平均して5、6名の方が参加しています。ご家族の場合は、ご夫婦での参加が最近は多いです。遠くからですと、沿岸部から参加いただいている方がいます。

北上会場は、事前予約にしており、また、盛岡会場での参加をご案内することもあります。ご家族同士で、他の方のお話を聴くこともすごく大事になってきますし、実際に他の方のお話を聴けて良かったとおっしゃる方が多いです。

回復したケースを紹介します。30代男性、宝くじで大きな借金を3回繰り返して、その度に家が1軒建つほどの金額を借金しました。宝くじ、ロト、パチンコなどで、その頃は、車のナンバーを見ても、買いたくなると話していました。やはり、会社のお金を使い込んでしまいました。

回復のきっかけは、家族から、こちらに相談に行くよう言われて、相談につながったことです。

また、退職して病院へ行き、3ヶ月入院になりました。その間にも、何度か波がありましたが、必要時、会いに来るように促したり、一緒に頑張ろうと伝えて、支援を継続してきたことが大きいと思います。

さらには退院後も、こちらに通い続けたこと、また若年者就労支援機関と連携し、再就職ができました。家の中でも、自分の居場所が出来、家族との関係性も良くなりました。

Q. 岩手県は自殺死亡率が高く推移している県であり、県民が一体となって自殺対策に取り組んできましたが、今後さらに必要とされる取組はありますか。

依存だけではなく、自殺の支援に関わっていますが、やはり連携が大事だと思います。もっと、各機関とスムーズに連携ができるといいなあと思います。当事者を誰が中心となってコーディネートしていくか、自立支援関係や役所内での連携が必要です。限られた範囲と時間で携わっているので、いずれは地元や身近な支援者に繋げていくことになっていきますが、そこがスムーズにいければと思っています。

Q. 岩手県の自殺対策に取り組んでいる支援者へのエールをお願いします。

「頑張らましよう」というのが当然ありますが、自分が心がけていることは、「白紙で向き合う」というところです。そして、「その人の持てる力を信じること」ですね。

こちらはお願いですが、ギャンブル依存に特化した研修の開催などがあればいいと思っています。

Q. 自殺対策に取り組む支援者にお勧めする一押しの書籍を教えてください。

①誤解だらけの「ギャンブル依存症」—当事者に向き合う支援のすすめ—

認定NPO法人ワンデーポート編/中村努、高澤和彦、稲村厚 著

だらしない病気だ、犯罪者だ、責任感がないなど世間の差別、偏見がつきまとうギャンブル依存。

日本で初めてギャンブル依存の人を支える施設（認定NPO法人ワンデーポート）を作り、支え続けた著者が、20年以上の活動の中で多くの当事者に関わりながら得た実感や事例紹介、専門家との対話から、望ましい支援のあり方について掲載されています。2022年6月刊行予定。

②季刊「ビィ」Be! ASK(アルコール薬物問題全国市民協会) 著

ASKは1983年8月7日に任意の市民団体として誕生しました。当初の活動の中心は、アルコール依存症者の子どもや配偶者など、問題に悩む家族でした。そこへ医療・保健・福祉などの関係者や、回復者らも加わり、活動は発展していきます。設立以来、アルコールをはじめとする依存性薬物の問題を予防し、回復を応援する社会づくりを目指して活動を続けてきました。2017年からは、インターネット依存・ゲーム依存・ギャンブル依存などの予防も事業対象に加えています。



◆ 精神保健福祉センターにおけるギャンブル依存の相談状況について

令和1～3年度は、毎年20～30件ほどの新規相談がありました。借金を繰り返し、どうしようもなくなってから相談につながる、という傾向は、消費者信用生活協同組合と同様です。

また、失踪や自殺企図で相談があったケースで、ギャンブルや借金が背景にあることも少なくありません。

近年は、債務整理後に、SNSで個人からの借金を繰り返し、悪質な督促を受けるケースが散見されます。債務整理後、再び借金を繰り返さないための金銭管理支援*が不可欠です。



*ギャンブル依存の金銭管理の方法は、藍里病院ホームページにPDF掲載されています。ギャンブル依存以外の方にも活用できる具体的な内容ですので、ご一読ください。

◆ 精神保健福祉センターにおける当事者への支援状況について

依存症は、対人関係での傷つき体験などから、不安・怒り・疲労・退屈などのストレスを、人との関わりの中で癒すことができず、“孤独な自己治療”として、様々なモノや行為に依存している状態と捉えられています。

ギャンブル依存の支援においては、①ギャンブルから離れる環境づくり、②脳の回復、③心の回復、④人間関係の回復、を目標に支援しています。

「ギャンブル障害回復トレーニングプログラム(SAT-G)*」を活用し、継続相談を行う中で、依存に至った背景や生きづらさを探り、ギャンブルに頼らない生き方を継続できるよう支援しています。ワークブックに沿って、ギャンブルの引き金や再発サインを振り返り、対処行動を実践していただく中で、ギャンブル以外のストレス対処や、余暇活動の充実を促し、人とのつながりの回復をサポートしています。

*ギャンブル障害回復トレーニングプログラム(SAT-G)

島根県立心と体の相談センター小原所長らが開発・実践し、全国の精神保健福祉センター等で活用されています。

2022年2月、中央法規(株)から出版され、ワークブックのダウンロード使用も可能です。是非ご活用ください。



インフォメーション

◆ 令和4年度精神保健福祉基礎研修

令和4年度精神障がい者地域移行・地域生活支援関係者基礎研修 (Zoom開催)

精神保健福祉機関における基本的な相談対応や、地域生活支援に必要な、精神疾患の基礎知識、精神障がい者の障害特性、支援方法を学びます。

日時：1日目 令和4年6月16日(木) 11:00～16:20

2日目 令和4年6月17日(金) 13:00～16:50

受講対象者

精神障がい者の地域精神保健に従事している行政関係職員、地域移行(退院促進)、地域生活支援、相談に関わる精神保健医療福祉関係者で、経験年数が概ね3年未満の者。

この研修は、精神障害者支援体制加算(35単位/月)の研修に該当します。

【申込み・問合せ先】

岩手県精神保健福祉センター (詳細は当センターホームページをご覧ください。)